

JANOG32 Meeting in Osaka

緊急時におけるインターネット開放方式共通化の提案

震災時における情報通信技術活用への期待

2013年7月4日

京都大学 防災研究所
社会防災研究部門
畑山満則



災害時の情報処理に期待されること

被災者・被災地域の安全の確保, 安心の形成

安全: ある基準(科学的根拠に基づくものがほとんど)が設定され, それを満たされること。
(辞書レベル)危険がないこと、被害(有形・無形を問わず)を受ける可能性がないことである。

安心: 基準は個人によりばらばらで根拠がなかったり, 非科学的なものも多い
(辞書レベル)気にかかることがない、心が落ちついている状態のこと。

もともとは仏教の言葉で、仏法によって心に迷いが無くなった境地のことを指す。

安全・安心と並べた場合(単独の場合は, 双方の考えを含んでいることが多い)

「安全」は客観的だが、「安心」は主観的である。

そのため、「安全だけど安心できない」「安全ではないけど安心してしまう」という状況が成立し得る

災害時の安全:

災害状況を迅速に正確に把握し, 過去の積み上げで作られた基準と照らし合わせることで判断

災害時の安心:

小さな不安を解消することにより「ひと安心」を積み重ねると得られる主観的な感覚

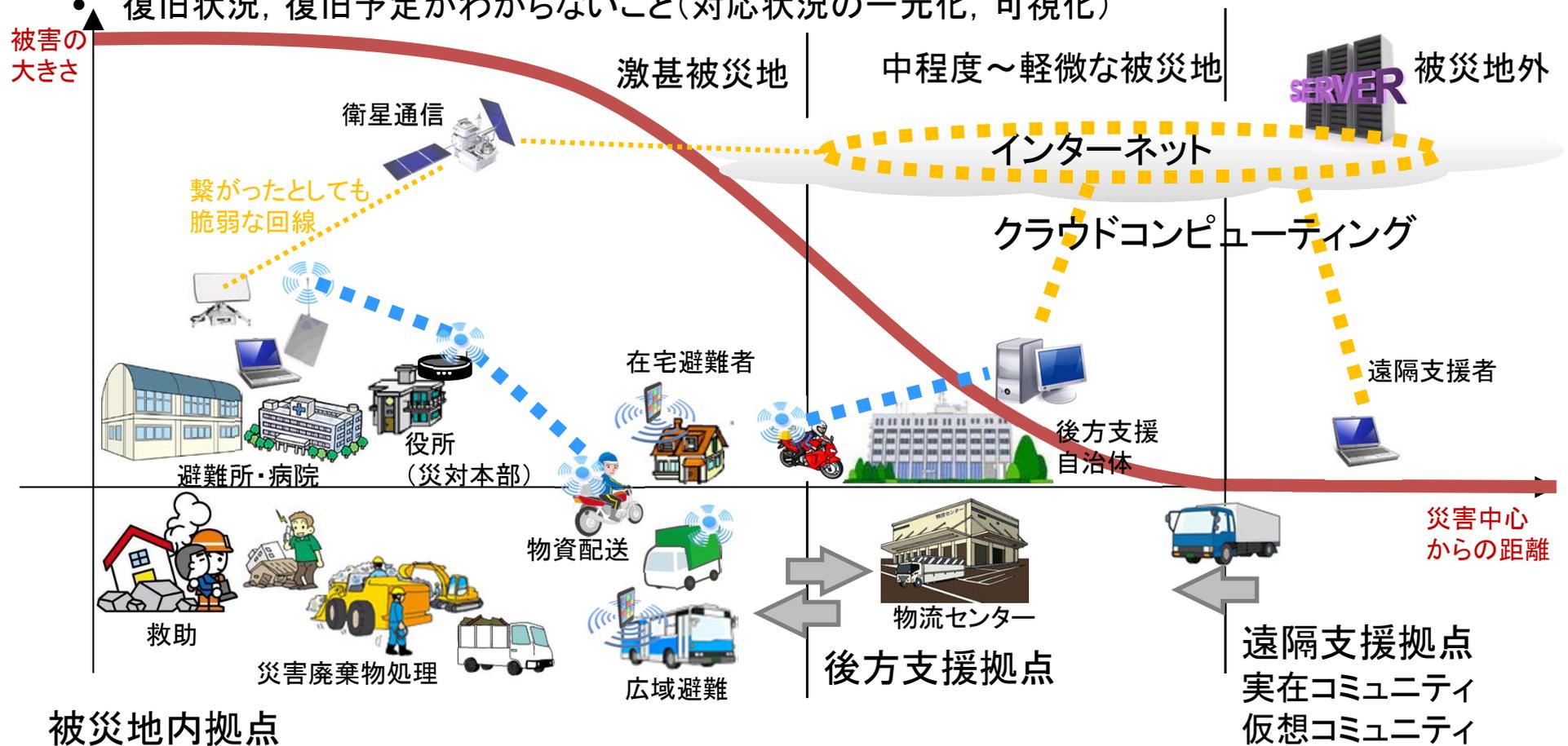
小さな不安材料を確定し, 可能であれば被災者が不安を感じる前に,

そうでなければできるだけ早くにその不安を解消することが災害時の安心につながる

災害時の不安材料と情報の関係

- 自分の安全, 家族の安全(一時避難)
- 周りの状況はどうなっているのか(災害情報の共有)
- 知り合いの安全(安否情報の共有)
- 当面の食糧, 物資の確保(滞在避難, 物資調達, 物資配送)
- 自分が忘れられていないか(在宅被災者把握, 行政の対応)
- 二次被害からの回避(広域避難)
- 被災建物の後片付け(災害廃棄物処理)
- 復旧状況, 復旧予定がわからないこと(対応状況の一元化, 可視化)

人の動きと



検討時に気をつけておきたいこと

緊急時の無線LAN開放には、大きな可能性がある



しかしながら

次の巨大災害で対応するためには継続的な議論が必要である



なぜなら

巨大災害は発生頻度が極めて低いため、
技術の進歩との兼ね合いが難しい

「想定外」を引き起こさないためには、事前に起こりうることをユースケースまで踏み込んで十分に検討しておく必要がある